

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院呼吸器乳腺外科で肺の手術を受け、通院歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学外科学第一講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご案内するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

胸腔鏡下肺葉切除術の術後遠隔期の呼吸機能評価に関する後ろ向き観察研究

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学外科学第一講座・准教授・吉増達也

3. 研究の目的

現在、肺の手術のほとんどは胸腔鏡で行われるようになっていきます。胸腔鏡下肺葉切除術は小さい創で行えるため従来の開胸で行う肺葉切除術に比べて術後早期の痛みが少なく呼吸機能も良好であることが知られています。しかし術後遠隔期においてどのようなメリットがあるのか詳細にはわかっていません。そこで我々は、当病院で肺の手術を受けた患者さんの術前後の胸部 CT 画像を比較して、術後遠隔期においても胸腔鏡下肺葉切除術後の呼吸機能が開胸の肺葉切除術後に比べて優れているかどうかを調べることを計画しました。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

2007年3月1日から2014年11月31日までの期間中に、和歌山県立医科大学附属病院で、肺葉切除術を受け、さらに術前及び術後1年目に呼吸機能検査と胸部CTの撮影を受けた方。

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、年齢、性別、疾患名、手術の方法、呼吸機能検査、CT画像に関する情報です。

(3) 方法

手術前及び術後1年目の、呼吸機能検査の値とCT画像から計算した肺の体積を、胸腔鏡下肺葉切除術の場合と、開胸での肺葉切除術で比較します。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させて頂きま。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学外科学第一講座 担当医師 吉増 達也

TEL:073-447-2300 FAX:073446-4761

E-mail:surgery1@wakayama-med.ac.jp